

2012年度(平成24年度)

社会福祉法人アンビシャス事業報告

法人理念

『どんなに障がいが重くても、自己選択・自己決定・自己責任において、自分が望む地域で暮らせる社会を目指す』

基本方針

1. 私たちは、障がいを持つ方の「地域移行」「地域生活」「日中活動」を支援します。
2. 私たちは、このような社会を実現するための運動をしていきます。
3. アンビシャスは、障がい者自らが地域生活における力をつけるため、学び・考え・実践し、社会の中での役割を持ち一歩踏み出す場とします。

アンビシャスを利用する障がい者の皆さんへ

1. アンビシャスは、地域社会で自立していくための人生の通過的な場です。生きていくための自信と力が付き、次の目標が決まった時には、アンビシャスに限らず色々な所でその“力”を発揮していきましょう。
2. アンビシャスでは、手足が不自由だからと言って、障がい者ではありません。皆さんが得てきた経験や知識、持っている力をアンビシャス、そしてここで働くスタッフや仲間に分け与えて下さい。
3. 街をぶらつき歩くことも障がい者にとって大切な仕事です。街に行くと必ず壁にあたります。壁を取り払うのは障がい者だからこそ出来る仕事であり、社会を変える運動です。
4. 障がいの有無に関係なく、お互いに助け合って活動をし、学びあい、社会に発信していくことを大切にしていきましょう。
5. このような取り組みを率先して行っていきましょう。

目 次

生活介護事業所「自由工房」	1
生活介護事業所「デイサービスセンターいるか」	5
生活介護事業所「フルハウス」	9
障がい者福祉ホーム「ステップ6・2」	12
居宅介護事業所「アンビシャスケアセンター」	16
相談支援事業所「相談室すきっぷ」	19

生活介護事業所 自由工房

事業方針

- ① 個別支援への取り組み
- ② 社会生活力の向上
- ③ 生産活動、職業体験、創作活動の充実

重点項目

スローガン 《聴く・やってみる・伝える》

- ① 自立生活プログラムや企画を通じ、経験をしてもらう事を大切に、メンバーが主体となり実現する。
- ② 様々な人の話や経験を聴いて参考にしながら、自分なりにやってみる事、伝えていく事を大事にしていく。
- ③ 心や体のゆとりをもつ事ができるよう、楽しむ企画や健康維持の活動について取り組んでいく。

報告内容（今年度の成果・反省）

○今年度は生活介護でのスタート2年目となり、（12年1月より生活介護に移行）前半はおかし工房の終了など「作業・仕事」から「創作・活動」に変化する中、自己選択や経験、学ぶ事を基本としている自由工房らしさを持続しながらの生活介護への移行にスタッフ・メンバー戸惑う場面もあったが、活動の整理や今後の方向性を互いに確認し合い少しずつ現在の日々の日中活動の形を作る事が出来た。

○利用者数については障害程度区分による利用要件の変更や活動内容の変更などで6名の利用者が減る事となり、利用率への大きなダメージとなった。一方、新規利用者獲得は2名にとどまり今後のPRポイントの改善が課題となる。

○活動面については、お菓子工房の搬入などがなくなり時間的なゆとりが出来た事でメンバーとのコミュニケーションの時間が大幅に増えた。しかし、個々の人間関係や現状の悩みなど活動ではない日々の相談などが多くを占め、個別の課題などが浮き彫りになった1年でもあった。

様々な経験や社会との交流を多くし自信に繋げる支援を目指し、本人が選択した活動に向けてやりがいを持ち取り組めるようスタッフの体制作りや個々の目標設定など個別支援計画の重要性を感じた。

○また、今年度の新たな取り組みとしては土曜日の活動をスタート。送迎を実施し「楽しむ」をテーマに鍋パーティーやカラオケ、外出企画を行ないみんなで楽しみながら行い好評を得た。参加数も安定しており来年度へ繋がる良い成果となる。

○スタッフ間での取り組みとしては、個別支援計画書の改善、共通認識や情報共有の機会を増やし、活動の内容やスタッフ間での対応の統一、非常勤スタッフとの連携を中心に行った。

個人の活動への目的などを確認し合う事で全スタッフがすべての活動においてメンバー個々の支援方針について共通認識を持ち対応できるよう体制作りを整えていきたい。

重点項目について

- スローガンについては形として表すのが難しくスタッフからメンバーへの浸透がうまく出来なかった事が反省となる。
- 自立生活プログラムについては、接客の仕方やマナーについて取り組んでいたが自身のケアや生活への関心が強くなり個別支援へシフトする傾向が多くみられ、全体のプログラム開催の機会が減ってしまった。
- 企画については、前半数多く実施出来ていたがスタッフでの企画、実施がメインになってしまいメンバー主体での形が取れていなかった。後半よりメンバーからリーダーを選出。再度、希望などを話し合いメンバー主体の企画を実施できた。
- 健康体操の取り組みについては、週2日の体操の時間の確保がうまく調整出来ず継続が出来ていない状況となってしまう、改めて可能な体制を検討していきたい。
- メンバー主体での取り組みでは、継続的に防災について話し合いを行ったり、女性のみのメイクやおしゃれについてILP 企画の実施が行われた。

次年度に向けた取り組むべき課題

- メンバー内の全体リーダーの育成
- 個別支援と自立に向けたサポート
- 生産活動と工賃の見直しと改良
- 利用者数確保に向けたニーズを踏まえた PR ポイントの確立（土曜日営業・健康体操など）と事業の改善

事業の実施状況 (2013/3/31 現在)

1-1 支援費区分・等級 (2013/3/31 付)

単位：人

支援費区分	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1	非該当	合計
人数	6	5	3	3	1			18名
障がい等級	1級	2級	3級	合計				
人数	9	7	2	18名				

1-2 年令別メンバー数

単位：人

性別 \ 年令	15～24	25～34	35～44	合計	平均年令
男性(名)	1	6	2	9	32歳
女性(名)	3	5	1	9	26歳
合計(名)	4	11	3	18	29歳

1-3 月別利用状況

単位：人

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
初日在籍数	22	20	19	17	17	17	17	17	17	18	18	18	217	18
開所日数	20	21	21	21	20	19	22	21	19	18	19	20	245	20
延利用者数	331	309	311	281	256	253	269	264	254	249	257	272	3306	275
1日平均利用数	17	15	15	13	13	13	12	13	13	14	14	14	166	13



足で筆を持ちステンシルふきの作成をしています。
 かい色合いの絶妙なバランスがとても上手です。



デザインやスタンプ押しなど女性ならではの細
 作業を協力して活動している場面



クリスマス忘年会ではAKB48の『ギンガムチ
 ェック』を毎日練習して本番を迎えました。
 手作りの衣装を身に着け踊りました！



行事企画では、企画をメンバーで考え実施してい
 ます。
 調理、ピヤガーデン、旭山動物園など様々な企画
 を行っています。

生活介護事業所 デイサービスセンターいるか

事業方針

- ①地域ニーズに応え安定した事業運営の実施。
- ②自分らしく日々の生活を楽しく、豊かにするためのサービス（支援）を提供。
- ③身体状況を把握した個別の介助。

重点項目

- ①登録者状況を踏まえた上での新規者の受入れをする。
- ②フリー登録制度を活用し利用率を維持する。
- ③施設理念をもとに利用者ニーズに対応する
- ④個別の身体状況の把握をする。

報告内容（今年度の成果・反省）

○年度当初は登録者数 57 名でスタートし、年間での動向は新規者 8 名、解除者 9 名であった。新規者のニーズとしては、一人暮らしや病院を退院し地域生活をする際の日中系サービスの活用、医療ケアを必要とする方の外出機会、他者との交流を求める方や入浴を希望をされる方々を受入れる事ができた。解除者については、65 歳以上となり介護保険サービスへ移行する方、他事業所へのサービス変更、施設入所する方がおり、その他として、サービス提供実施外への引越しや死亡によるものである。

○年間での延べ利用者数については 3079 名、昨年度は 3224 名で 145 名の減員であった。フリー登録利用については年間 105 名、月平均 8.8 名であった。4 月から 12 月までの間で昨年度比較すると 72 名減員、1 月から 3 月まで比較すると 73 名減員となり冬期間にかけにかけ利用者数が急激に落ち込む。減員理由は体調不良や長期入院による方が多く発生したものである。年間を通じての新規登録者と既存の利用者数（フリー登録利用者数）の増員に至らなかった事が反省課題としてあげられる。

○日中活動の取り組みでは、法人行事としてクリスマス忘年会が毎年行なわれていることもあり。この行事に合わせてクリスマスツリーの装飾品作りを利用されている皆さんに依頼した。過去の日中活動の取り組みとして、一つの目標・目的（クリスマスツリーを作り上げる事）に合わせて協力し活動する事がなかったが、創作の得意な女性利用者と一緒に男性利用者と作ったり、飾り付けしたり、とても生き生きし活気のある雰囲気で行なうことができ、今後の日中活動のヒントを得ることができた。

○利用者の身体状況の把握として、スタッフミーティングでの情報共有や関係機関との連絡調整により対応する事ができ、継続し安全、安心、安定した介助を行なうことができた。

次年度に向けた取り組むべき課題

- ・土曜日営業について、利用者ニーズを調査し、検討する。
- ・楽しく過ごしていただけるサービス（支援）を実施する。
- ・安全、安心、安定した個別性を持った介助を提供する。

■利用者動向

項 目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均	
新規登録者	0	1	2	0	0	0	1	3	1	0	0	0	8	0.7	
利用解除者	0	0	2	1	1	1	2	0	0	0	1	1	9	0.8	
登録者数(月末)	57	58	58	57	56	55	54	57	58	58	57	56		56.8	
月利用実人数	53	55	55	55	54	51	52	53	55	52	52	49	636	53.0	
開設日数	20	21	21	21	20	19	21	21	20	18	19	20	241	20.1	
祝日サービス日数	0	0	0	1	0	1	1	1	1	0	1	1	7	0.6	
開設延べ日数 (祝日、入浴サービス 温泉含む)	20	21	21	22	20	20	24	22	21	18	20	21	250	20.8	
通常デイ利用者数	251	260	277	266	256	245	311	270	248	208	217	219	3028	252.3	
祝日・入浴サービス 利用者数	0	0	0	6	0	7	5	9	12	0	5	8	52	4.3	
利用者延べ数	251	260	277	272	256	252	316	279	261	208	221	226	3079	256.6	
通常デイ平均利用	12.6	12.4	13.8	13.2	13.0	12.9	12.6	12.3	13.1	11.3	11.6	11.6		12.5	
全営業平均利用 (祝日、企画含む)	12.6	12.4	13.2	12.4	12.8	12.0	13.2	12.1	11.9	11.6	11.1	10.8		12.1	
男性延べ	144	150	163	160	145	147	176	162	148	111	125	121	1752	146	12.17
女性延べ	107	110	114	112	111	105	140	117	113	97	96	105	1327	111	9.22

平均

■年齢別利用者数

	15～24	25～34	35～44	45～54	55～64	65歳以上	合計	平均年齢
男性(名)	0	1	3	3	11	10	28	59
女性(名)	1	2	7	4	8	6	28	59
合計(名)	1	3	10	7	19	16	56	59

■障がい等級

	1級	2級	3級	4級	5級	6級	合計
男性(名)	17	9	0	1	0	1	28
女性(名)	20	6	1	1	0	0	28
合計(名)	37	15	1	2	0	1	56

■障がい程度区分

	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
男性(名)	5	7	3	4	9	28
女性(名)	5	10	2	6	5	28
合計(名)	10	17	5	10	14	56

※2012年度末(2013年3月31日現在)の数値で算出しています。

■年間企画活動報告

4月	10月
・陶芸／8回 ・絵手紙2回 ・車いすダンス／2回	・陶芸／8回 ・絵手紙／2回 ・茶話会／1回 ・1泊2日温泉旅行／湯元第二名水亭
5月	11月
・陶芸／5回 ・茶話会／5回 ・お花見企画(厚田)／4回	・陶芸／9回 ・絵手紙／2回 ・茶話会／5回
6月	12月
・陶芸／8回 ・茶話会2回 ・曜日別企画(月曜日)新千歳空港 ・果物狩り企画／2回	・陶芸／6回 ・絵手紙／1回 ・クリスマス忘年会
7月	1月
・陶芸／7回 ・果物狩り企画／2回 ・曜日別企画(火曜日)地下歩行空間	・陶芸／4回 ・絵手紙／2回 ・半日外出企画(発寒イオン)／4回 ・鍋パーティー／2回
8月	2月
・陶芸／6回 ・曜日別企画(木曜日)新千歳空港 ・曜日別企画(金曜日)小樽ウィングベイ	・陶芸／6回 ・絵手紙／2回 ・鍋パーティー／3回 ・映画買物企画(札幌駅)／2回
9月	3月
・陶芸／7回 ・バーベキュー／5回 ・ながつきフェスティバル	・陶芸／7回 ・絵手紙／2回 ・映画買物企画(札幌駅)／3回

■年間企画活動風景

5 月 《お花見》



～ 厚田 戸田記念公園 ～

10 月 《温泉旅行》



～ 湯元第二名水亭 ～

6 月～7 月 《くだもの狩り》



～ 南区 佐々木果樹園 ～

12 月 《クリスマス装飾》



～ アンビシャス ～

9 月 《バーベキュー》



～ アンビシャス 2F テラス ～

1 月鍋 《パーティー》



～ アンビシャス食堂 ～

生活介護事業所 フルハウス

事業方針

- ① 地域で暮らす重度障がいを持つ方の日中活動の場を保障し、給食・送迎・レクリエーション・健康維持活動の基本サービスを中心に、日々の生活を楽しく豊かにするために個性を活かしたさまざまなプログラムや社会参加に向けた取り組みを行なう。
- ② 札幌いちご会・アンビシャスの『どんなに障がいが高くても地域で暮らしていけるように』という理念の実現に向けて、最も重度と言われる人達が住み慣れた地域で暮らす事が可能となるよう日中活動先の役割を担う。

重点項目

- ① 一日あたりの安定した利用者数の確保（目標：一日利用平均 4 名）
- ② 日々医療ケアを安心して受けられるようスタッフのケア技術の向上
- ③ 医療ケアの必要な人も無い人も、可能な限り個々の状況に合わせたタイムスケジュールや落ち着いた環境の中で充実した活動が出来る体制づくり

報告内容（今年度の成果・反省）

○利用者確保について

2012 年度は、3 名増員の登録者利用者数 11 名となった。PR 活動は前年度同様行ってきたが、新規利用者の大幅な獲得には至らず年度当初掲げていた目標の一日利用平均 4 名は達する事は出来なかった。しかし、前年度と比べ体調不良による長期休みや入院等で休みとなる利用者が少なかった事もあり、一日平均 1.7 名から 3.2 名と大幅に利用率は上がり、長期休みや入院等が無い限りは利用率安定の見通しが立てられるラインまで持って行く事が出来た一年であった。また、札幌市内の養護学校の進路教諭と連携のもと、卒後の進路先調査と在学中の生徒の体験実習受入れを積極的に行なう事により卒業直後からの利用受入れ対応を行なう流れを作ることが出来た。

※体験実習生受入れ状況：高校 1～3 年生の生徒 5 名（内：2 名の新規利用受入れとなる。）

○医療ケア（ケア技術の向上）

看護師以外のスタッフが医療ケアに対応出来る体制作りとして、常勤スタッフがまず初めに医療ケアを必要とする利用者の理解と対応方法について、日々の活動時間の中で看護師（介護職員等のたん吸引等研修指導者登録者）による指導を受け、医療ケアを必要とされる本人とご家族の同意を得ながら一年にわたり実施してきた。また、「介護職員による喀痰吸引等の実施認定」に向けては、研修受講と実地研修を日々重ね、ケア技術の向上に努めた。曜日によって医療ケアを必要とする利用者が来ていても問題無く対応出来る体制が整いつつある中で、今後も医療ケアに対応出来るスタッフを増やしていけるよう継続して体制作りに努めなくてはならない。

○医療ケアの必要な人も無い人も可能な限り個々の状況に合わせたタイムスケジュールと充実した活動の実施

利用者数や活動に合わせたスタッフ体制の配置については、ボランティア・他事業所からのサポートもあり外出活動においては問題無く実施する事が出来た。しかし、利用者数増加に伴い一日に活動できる人数にも限りがある為外出方法の見直しと工夫が必要

である。日中活動においては、個々の状況に合わせたタイムスケジュールと個別支援計画の継続支援を行う事で精一杯な現状もあり、日中活動の充実した取り組みが体制上取れない時期もあり、他事業法人スタッフやボランティアに頼らなくてはならない状況であった。人が安定しないという事で利用者家族には不安を抱かせてしまう場面も少なからずあり、安定したスタッフ体制を求められた一年でもあった。

●実施活動内容

◆健康体操（個別のプログラムを基に実施）



◆スポーツ・レクリエーション



レク：風船バドミントンゲーム他



スポーツ：ボーリング（アンビシャスにて）

◆創作活動（音楽・調理体験・絵画・その他）



音楽：楽器演奏・音楽鑑賞等毎月実施

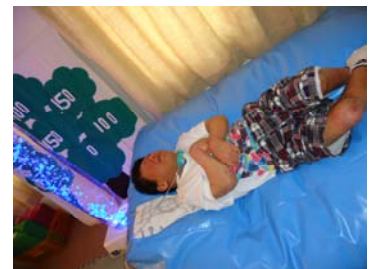


調理：毎月実施

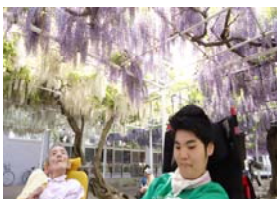


絵画：毎月実施

◆スノーズレン（随時実施）



◆外出（随時実施）



◆外出行事（木下大サーカス実施 7/6・10・13・23・24）（おたる水族館 10/2・3）

◆その他

毎月の活動をまとめご家族・関係機関に「ふるはうす・たいむす」の発行

次年度に向けた取り組むべき課題

◎利用率の安定と誰もが安心できる体制づくりと活動内容の充実

『目標：一日あたりの安定した利用者数の確保（一日利用平均4名）』

- 利用者増員に伴う活動スペースの確保
- 送迎サービスの実施方法について検討
- スタッフ体制の安定（収支状況を踏まえた人員増員の検討）
- ボランティア募集（有償ボランティアの活用を検討）

2012年度利用実績

2013年3月31日現在

●月別利用状況

項 目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
新規登録者	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	3	0.3
利用解除者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
登録者数	8	8	8	8	8	8	8	9	9	9	9	11		8.6
開設日数	20	21	21	21	20	19	22	21	19	18	19	20	241	20.1
利用者延数	61	68	67	69	57	61	67	69	59	60	58	73	769	64.1
一日利用平均	3.1	3.2	3.2	3.3	2.9	3.2	3.0	3.2	3.2	3.3	3.1	3.7	38.3	3.2

●曜日別利用者状況について（利用定員6名）

曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
医療ケア無	3名	3名	2名	2名	3名
医療ケア有	3名	3名	3名	0名	2名
計	6名	6名	5名	2名	5名

<2013年3月末現在登録者>
 ※医療ケアの主な種類
 （痰吸引・経管栄養）

●年齢別利用者数

	15～24	25～34	35～44	45～54	55～64	65歳以上	合計	平均年齢
男性(名)	4	0	1	0	1	0	6	34
女性(名)	3	1	1	0	0	0	5	26
合計(名)	7	1	2	0	1	0	11	28.9

●障がい等級

	1級	2級	合計
男性(名)	6	0	6
女性(名)	5	0	5
合計(名)	11	0	11

●障がい程度区分

	区分5	区分6	合計
男性(名)	0	6	6
女性(名)	1	4	5
合計(名)	1	10	11

障がい者福祉ホーム ステップ6・2

事業方針

- ① 主体性を持って生活を組み立てる
- ② 将来に向けた地域生活の実現を目指す

重点項目

- ① 入居条件の見直し
- ② 面談を通じた目標設定の確認
- ③ 潜在化している対象者の発掘
- ④ 重度の障がい者の住まいの場

報告内容（今年度の成果・反省）

○これまで、福祉ホームの事業方針として4年を目途に退居し地域での生活を目指す場所として運営をしてきたが、入居期限を定めていた事が障壁となり入居をためらう方がこれまでも多くいた事から、今年度より入居年数が4年（再入居する場合も含む）を経過した場合は、今後も続く地域生活希望者の設備維持の観点からも家賃を改定し、住環境の安定と継続した入居生活を可能とした。

改定の内容

- ・ 4年未満の賃料26,000円/月額
 - ・ 4年以上の賃料36,000円/月額（再入居する場合も含む）
- （すでに入居から4年を経過している方については、平成24年10月より賃料を改定）

○この1年間の入退居状況については、3～4名と例年と変わらなかった。また、自立生活体験室の利用は月平均2.5人、宿泊利用日数は10日前後であった。札幌市の地域生活体験事業の補助金を受けて利用された方は6名。しかし、全員が年度内の入居へは至らず次年度への継続した支援が必要となる。最近の傾向としては、親元から離れて自立した生活を目指す方よりも、病院から直接ホームへ入居希望される方が退院日までの必要な準備と作業に対して積極的・具体的に取掛かれる事から、円滑に地域生活の移行（入居）へと繋げられる傾向が強くみられた。

○個別面談については年2回実施し、日頃の生活相談から制度の活用方法や将来的な方向性の確認をする事ができ、自らが主体的に考えながら生活を組み立てていく事の重要性を再確認できる機会となった。福祉ホームはあくまでも通過的な場所であり、最終的には地域生活の実現を目指す場所である事を双方が認識し、地域移行に必要な一つの社会資源として機能していかななくてはならない。

次年度に向けた取り組むべき課題

- 法人併設の事業を利用されている方への入居支援
- 個々の障がいや異なる利用目的を持つ方への入居支援
- 潜在化している自立生活希望者の発掘

2012年度利用実績

2013年3月31日現在

1. 月別入退居状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
初日 入居者数	12	12	13	13	13	13	13	13	13	13	12	12
入居者数	1		1						1			
退居者数	1								1	1		1

【退居者：4名】

退居日	性別	年齢	障がい名	退居後の動向
4/28	男性	54	ろうあ	手稲区の共同住宅
12/28	男性	24	脳性マヒ	北区の一般アパート
1/29	男性	64	頸椎損傷	中央区の実家へ
3/6	男性	63	ポリオ後遺症による左上下肢障害	入院先にて逝去

【入居者：3名】

入居日	性別	年齢	障がい名	入居前の生活
4/12	男性	30	脳性マヒ	一般アパート（再入居）
6/1	男性	64	頸椎損傷	病院
12/13	男性	55	熱傷による右下肢の大腿の1/2以上欠くもの	病院

2. 開設時からの実績（2000年4月～）

- ・利用者総数：64名（内、2013年3月31日現在の利用者11名）
- ・退居後の移行先（退居者53名）

アパート	市営住宅	共同住宅	家族と同居	病院	入所施設	その他	合計
31	9	6	3	2	1	1	53

3. 利用年数別入居者数

	1年未満	1～2年	2～3年	3～4年	4～5年	5年～	合 計
男 性	2	0	1	2	1	2	8
女 性	0	0	1	1	1	0	3
合 計	2	0	2	3	2	2	11

4. 年齢別入居者数

年令 性別	15～24	25～34	35～44	45～54	55～64	65歳以上	合 計	平均年令
男 性	0	1	1	1	3	2	8	53.7 歳
女 性	0	0	1	1	1	0	3	50 歳
合 計	0	1	2	2	4	2	11	52.7 歳

5. 障がい種別

種別 等級	脳性マヒ	脳血管 障がい	フアール 症候群	頸椎損傷	両混合性 難聴 視覚障がい	全身性 エリテマト ーデス	多発性 硬化症	熱傷による右下 肢の大腿の1/2 以上欠くもの
1 級	2	2	1	1	1	1	1	
2 級	1							
3 級								1

6. 自立生活体験室利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用 者数	2	3	4	3	3	2	3	3	2	1	3	1
うち自 立体験	1	2	1	0	1	0	2	2	1	0	1	0
利用 日数	9	15	26	10	7	7	8	17	5	3	7	3



自宅での生活とホーム交流会の様子（ジンギスカンパーティー）



毎年恒例のながつきフェスティバル（9月）とクリスマス・忘年会（12月）



居宅介護事業所 アンビシャスケアセンター

事業方針

- ① 安定した派遣と質の高いケアの提供
- ② 重度の障がいを持つ方への支援体制の整備

重点項目

- ① 特定事業所加算取得に向けた環境整備
- ② ホームに入居されている意思疎通の困難な方の支援体制の拡大

報告内容（今年度の成果・反省）

○今年度は、3月末現在の利用者数は49名、新規利用者8名、契約解除6名（内、派遣地域外への転居1名、施設入所1名、他事業所への移行1名、契約更新なし2名、死去1名）、ヘルパー数は、常勤ヘルパー1名を雇用し2名体制となり、非常勤ヘルパー36名での活動となった。

総派遣時間数は、月平均1,730時間となり、前年度の月平均1,692時間をわずかではあるが上回ることができた。長期入院による利用者が数名おり派遣数が減少したが、重度の障がいを持つ方の派遣時間数は増加傾向であった。

○新規契約については、数件の問い合わせがあったものの、ヘルパーの確保ができなかったため受け入れることが出来ず、月数回程度の通院介助や移動支援利用の契約の受け入れが中心となった。

○重度の障がいを持つ方への支援体制では、ご本人の体調も崩すこともなく安定した派遣を行うことが出来き、11月から週1回ではあるが非常勤ヘルパーでの夜勤体制を整える事ができた。来年度も引き続き、ご本人の体調と休日等の体制を強化すべく、夜勤・日中稼働できる人材確保と育成を行い、柔軟に対応できる支援体制の整備を図りたい。

○6月より重度訪問介護の特定事業所加算の体制が整い、取得できたことは大きな成果であった。来年度は、居宅介護特定事業所加算についても取得を検討しているため、研修内容等、準備や計画をしていく。

① ヘルパーについて

○10月から雇用非常勤ヘルパーから人選し常勤ヘルパーへと雇用変更したことで、安定した派遣ができた一方、常勤ヘルパーの勤務体制（日中帯、夜間帯）が違いため、代行調整等に苦慮することが多かった。来年度は、固定派遣を含めて勤務体制の見直しの必要性を感じた。

○非常勤ヘルパーの確保については、求人誌等の媒体を利用し求人募集を行ってきたが、ヘルパー不足解消には至らなかった。来年度は、



福祉ホーム交流会でのケアの様子

求人募集の方法等の見直しが必要である。

○サービス提供責任者の派遣について

月平均10時間程度を予定に組み込んでいたが、急遽の代行や単発派遣、非常勤ヘルパーの固定派遣が調整できずサービス提供責任者が代行する形で派遣に入ることが多かった。その他、サービス提供責任者1名が週1回の夜勤を行っているため、取り組むべく事業の業務、準備等の時間があまり取れず不十分であった。来年度に向けて、業務内容や業務分担等の見直しを行わなければならない。

② 研修内容の検討

○今年度のヘルパーミーティングは3回行った。(リスクマネジメントと特定事業所加算について、事例検討、個別面談)

日頃よりヘルパー同士が顔を合わせる機会があまり無く、ミーティングを通して活動中の疑問に思っていることや意見、情報交換ができる良い機会となり、一定の成果を得られた。ヘルパーの参加率や研修内容、開催日程(土日の開催)等の検討が課題である。サービス提供責任者としても制度等の勉強会を行わなければならないと感じた。

○医療ケア(たん吸引等)の研修について

医療ケアを必要とする利用者の派遣を安定させるために、スタッフ3名、非常勤ヘルパー2名が受講した。



ヘルパーミーティングの様子

次年度に向けた取り組むべき課題

- ① 利用者の新規獲得
- ② 重度の障がいを持つ方への支援体制の強化
- ③ 質の高いケアの提供と安定した派遣
- ④ 居宅介護特定事業所加算の取得

サービス別実績時間数

	利用者数	重度訪問介護	身体介護	家事援助	(身体有) 通院介助	(身体無) 通院介助	(身体有) 同行援護	(身体無) 同行援護	(身体有) 移動支援	(身体無) 移動支援	総時間数
4月	49	974.5	302	303.5	43	4		27	96.5	48	1798.5
5月	49	1234	182.5	268.75	45.5	5	4.5	23	37	43.5	1843.75
6月	51	1107.5	159.5	261.5	42	7		29.5	39	53.5	1699.5
7月	51	1096	198.5	278.25	53	2.5		34.5	41.5	55	1759.25
8月	53	1127.5	199	270.25	67.5	4	4	27.5	37	67	1803.75
9月	53	1074.5	138	193	41	5.5	4	32	37	32	1557
10月	47	1109	219.5	268	67	4.5	4	21	40.5	44	1777.5
11月	47	1232.5	156.5	218	45.5	14	4.5	19	31	29	1750
12月	51	1182.5	141	180.25	39.5	23.5	4	16	55	43.5	1685.25
1月	51	1239.5	128.5	184.75	43	13.5	3.5	17	39.5	26.5	1695.75
2月	51	1159.5	182	155	32	21	5.5	15	40	40.5	1650.5
3月	49	1192	177	218.5	40.5	19	3.5	23	48.5	17	1739
合計		13729	2184	2799.75	559.5	123.5	37.5	284.5	542.5	499.5	20759.75

札幌市障害者相談支援事業 相談室すきっぷ

事業方針

- ①障がいを持つ方に対し、その種別に関わらずあらゆる相談の一番身近な窓口として支援を行なう。
- ②本人支援を基本としつつ、そこからつながる家族、関係者、地域の方への相談支援も状況に応じ行なう。
- ③本人につながるフォーマル、インフォーマルな福祉サービス、行政、医療などあらゆる機関と必要に応じ、サービス調整会議、ケース会議などを通じて支援内容、役割の確認をし、効率的かつ有効に本人に対する支援が行なえるような場を積極的に設定する。
- ④本人の意向、エンパワメントを尊重しつつ、可能な限り地域での自立的な生活を支援する。

重点項目

○計画相談支援の実施 ○地域相談支援の実施 ○体験プログラムの実施

報告内容（今年度の成果・反省）

○2012年度はこれまでの委託費による基本相談の事業内容に加え、あらたに福祉サービスの個別給付の対象となる計画相談支援、地域相談支援の事業が始まる年となり、相談支援事業として担う役割がますます重要になっていくのと同時に人員体制の整備についての課題も大きなものとなっていくと考えられる。2012年度の計画相談の登録は10件となっている。地域相談については精神科の病院からグループホームへの入居に向けての支援を1件行った。

○相談ケースの苦情として、独立行政法人自動車事故対策機構への介護料支給申請の手続きの支援を行っていたが、受理されておらず結果としては相談者に不利益を与えてしまったことが判明し、法人として賠償責任について法律顧問契約を結び法律事務所を通して対応を行った。このことから相談支援業務の改善について、ケース共有の時間の確保や記録を残していくために書式を見直しと整備していくためのソフトの導入や書類の郵便発送簿の徹底などリスクマネジメントの意識を持ちながら日々の相談業務を行っていくことを確認した。

○相談員の研修については、他の相談室での実習や外部の相談員の実習を受け入れることで、それぞれの相談室のやり方や考え方なども参考になり、あらためて自分たちの業務を振り返ることができる貴重な機会となった。今後も積極的に研修を行うことで連携とスキルアップに繋がるものとする。

○データとして見ると相談件数は延べ3,344件で、件数は増加している。（前年度2,098件）障がい種別の割合では身体35%（前年度42%）、知的38%（前年度38%）、精神14%（前年度13%）、発達8%（前年度5%）となっており精神障がいと発達障がいの件数が年々増えている。障がいを重複しているケースも多く、手帳の内容と本人の相談がどの状態で支援が必要なのかによって障がい種別の数字が変わっていくことがある。また、これから手帳を取得する、あるいは未診断の障がいのケースも増えてきている。

○相談室につながるケースとしては区役所の窓口や民生委員、病院のワーカーなど関係機関から相談室を紹介してもらうケースも増加しており、これから計画相談、地域相談への対応が本格的になっていくにつれて連携と情報共有がますます重要になるだろう。そういった意味においても地域の相談窓口として認知されつつあるのかもしれないが、問題解決への迅速な対応のために今

後もさらに相談体制の充実を考えていくことが必要となる。

○支援内容としては

- ①在宅療養を希望し自宅で週末を迎えた重度の身体障がいの方（キーパーソンになる親族等不在の方）のケース。キーパーソン不在の中でのターミナルケアチーム作りの支援。
- ②通所先で他害自傷行為等を繰り返す為、事業所では対応不可になり（障がい特性と環境や関わり方のズレによる）新たな通所先を探す為、地域（西区）に対応可能な事業所が見つからず、札幌市自閉症・発達障害支援センターなどの専門機関と連携し本人に対するケースワークと、事業所に対する機関支援などを行うソーシャルワークを平行して行ったケース。
- ③成人してから、発達障がいを診断されたが親からの理解を得られない。手帳等も未取得の為、本人とその周囲の方への障がい理解促進から支援をするケース。

上記の様に相談室の機能だけでは対応困難なケースが多く、あらゆる関係機関と連携しチーム支援としてのアプローチが重要になることが考えられる。また、各関係機関（医療、福祉、教育）と連携を取っていく中で、当相談室としても発達障がい、精神障がいの障がい特性についての捉え方、各関係機関の役割や機能についても今後、さらなる研鑽と理解が必要である。

○昨年度は開催できなかった体験プログラムについては、参加者3名のうち2名が2回目の参加となった。本来であれば養護学校の生徒や最近の卒業生を対象として福祉サービスを利用したことがない方へのプログラムだが、あまり参加者が集まらない結果となった。次回以降は相談室が主体となって開催するのではなく、進路先となるような日中活動の事業所（自由工房）と一緒に体験プログラムを実施できればと考えている。

《夏体験プログラムの様子》



介助者との外出



体験発表



全体写真

次年度に向けた取り組むべき課題

○相談室すきっぷの役割として、地域の相談窓口として周知されていき地域の事業所など、関係機関とのネットワークづくりが今後さらに重要になっていくと考えている。相談員だけで解決が困難なケースが多い中で、効率よく効果的に支援していくためにも必要である。そして、関係機関と一緒にケースワークを行っていくためには記録や情報の整理が重要となり、状況をタイムリーに把握していくための意識を持つために日々の報告・連絡や事例検討を行いながら確認していくことが重要となる。

○増加傾向にある発達障がい者（児）への支援のノウハウ、虐待通報に対する関係機関との連携、触法の障がい者への支援など権利擁護にもつながるケースに対応できるように専門機関の活用など、相談ケースを通して相談技術のスキルアップや制度の理解を深めていくことが必要だと考えている。

2012年度 相談支援事業実施状況

平成24年4月～平成25年3月

相談室すきっぷ

1 登録者の概況

前年度末登録者数	今年度新規登録者数	今年度抹消登録者数	今年度末登録者数
307	94	182	219

〔区別内訳〕

中央	北	東	白石	厚別	豊平	清田	南	西	手稲	市外	計
7	3	0	4	1	3	0	1	180	17	3	219

〔障がい別内訳〕

	身体	重心	知的	精神	発達	高次脳機能	その他	計
障がい者	53	4	70	33	23	3	6	192
障がい児	8	1	12	0	5	0	1	27
計	61	5	82	33	28	3	7	219

2 相談支援(個別支援)の概況

〔障がい別内訳〕

身体						重心	知的			精神	発達					高次脳機能	その他	合計
肢体	視覚	聴覚	言語	内部	計		自閉	他	計		高機能	学習	ADHD	他	計			
1061	23	12	1	73	1170	66	85	1177	1262	469	5	1	23	237	266	33	78	3344

〔支援方法別内訳〕

訪問	来所相談	同行	電話相談	電子メール	調整・ケア会議	関係機関	その他	計
567	228	253	951	49	98	1185	13	3344

〔支援内容別内訳〕

支援内容	件数	支援内容	件数
① 福祉サービスの利用に関する支援	1681	⑦ 家計、経済に関する支援	323
② 障がいや病状の理解に関する支援	82	⑧ 生活技術に関する支援	255
③ 健康・医療に関する支援	191	⑨ 就労に関する支援	125
④ 不安の解消・情緒安定に関する支援	326	⑩ 社会参加・余暇活動に関する支援	39
⑤ 保育・教育に関する支援	133	⑪ 権利擁護に関する支援	19
⑥ 家族関係・人間関係に関する支援	170		
		合計	3344